

日本武道館

寒さなんか吹き飛ばせ！

寒稽古で心身練磨

日本武道館武道学園

武道学園の寒稽古が、日本武道館小道場で新型コロナウイルスの感染対策を講じた上で実施された。1月10～14日は柔道と剣道、17～21日は空手道と少林寺拳法が行われ、延べ224名（うち少年少女86名）の生徒が参加した。寒さの中、生徒たちは元気いっぱい稽古に励み、道場内は熱気に満ちた。

午前6時過ぎ、稽古に励む老若男女が日本武道館に続々と集まった。生徒は健康記録表の記入と手指の消毒を済ませ、マスクを着用して道場に整列。6時半から稽古が始まった。剣道は後半に一般の部と少年の部を分け、ほかの種目は合同で実施した。各道とも道場内は熱気で満ち溢れ、1時間の稽古はあっという間に終了。少年の部の生徒たちは、持

参したおにぎりを頬張り、元気よく各々の学校へ向かった。
寒稽古の最終日には、皆勤者に皆勤賞として賞状と賞品が講師から贈られた。皆勤者は柔道5名、剣道14名、空手道10名、少林寺拳法7名の合計36名（うち少年15名）であった。少林寺拳法では、衆議院議員の高村まさひろ正大日本武道館理事も皆勤者となった。



剣道



空手道



柔道



少林寺拳法の稽古に励む高村理事（中央）